

科目名 Subject	美容デザイン実習Ⅳ Practice of Beauty Design IV			教員名	ヘアチーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2単位	
必修／選択	選択	授業形態	実習	時間	60単位	
実践的教育	○					
主な学習効果	知識・技能	主体的行動力	課題解決能力	多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力	日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力	美しく生きる力を実践できる能力
	◎		○	○		
科目の概要	1) 美容師に必要な知識・技能を元に、時代のニーズを取り入れた授業を展開する。 2) 美容技術プログラム・ピボットポイントシステムにおける、ヘアスカルプチャー・ヘアカラーリングの基礎理論を理解し、テクニックを習得していく。また創造力を刺激し、洗練されたデザインの基盤を作り上げる。 3) ヘアスタイリングするうえで、サロンワークの基礎であるシャンプー技術とブロー技術を学び、プロとして通用する技術力を習得する。 4) 習得した知識や技術を繰り返し復習し実践することで、自身の課題発見につなげ、応用する場面を想定できるようにしていく。美容師国家試験実技課題のワインディング技術（パーマネント技術におけるロッド巻き）、オールウェーブセッティング技術の基礎技術を学びながら、美容に対する興味を深めるべく礎を築いていく。 5) 習得した知識や技術を繰り返し行うことで、自身の課題発見につながり、応用する場面を想定できる。 6) 自身の目標達成の為、技術施術中の動画を撮影し、改善課題を確認・分析して更なる技術の向上を図る。その際、ペアで動画撮影し学生が互いにフィードバックし合える機会も作ることによって、より多くの気づきが得られる授業を展開する。 なお、本授業の後半においてゲストスピーカーを招聘し、サロンの現状や現場で実践されている技術について教授いただき、知見を深める。					
授業方法	対面授業を基本とするが、状況によってはZOOMによる同時双方向（リアルタイム）のオンライン授業を実施する。 また、状況次第で、全面オンラインに切り替えることや、対面よりもオンライン授業の回数を増やす可能性もある。					
授業の目標	1) ヘアカットでは、4つのベーシックフォームヘアスタイルを再確認し、説明することができる。また、ヘアカラーリングでは、基礎知識と化学作用を理解し、マネキンを使い実習を行う。その結果、ヘアカラーの仕上がりイメージを予測できるようになる。更に加齢などによって起こる白髪（グレイヘア）の応用理論やテクニック、また高齢者がどのように美容を意識しているかなどの現状把握を行い、より求められるカラーデザインを行うための塗布テクニックを習得し実践できる。 2) シャンプーとブローについて学び、髪や頭皮の理論を理解し、目標時間内にシャンプー＆ブローの全工程を施術することができる。 3) 美容師国家試験実技課題であるワインディング技術、オールウェーブセッティング技術ならびにサロンの現場で必要とされる技術を学び、実践を重ねることによりステップアップすることができる。					
時間外学習 （予習・復習）	〈プログラム・ピボットポイントシステムにおける、ヘアスカルプチャー・ヘアカラーリングについて〉 予習・毎回の課題についてテキストを熟読しておく。30分 予習・テキスト内の「デザインの決定」（展開図などを記入）を予測記入しておく。20分 復習・テキスト内の評価表を記入し、点数化しておくこと。20分 復習・課題の展開図などの黒板を板書し、次回に向けて内容を見返し理解を行う。30分 〈ワインディング技術(WD)・オールウェーブ技術(AW)について〉 学んだ技術の振り返りを行い、研究しながら繰り返し練習する。また、学習・練習内容をノートに記録し、次の技術目標を設定する。なお、各回の復習には概ね60～90分程度行い、次回の授業の際に技術が後退しないように定着させておくこと。 ※指定時間は平均的な時間を記載している。時間にとらわれ過ぎず次回授業までに知識・技術が漏れないようにすることが重要である。					
教科書・教材	教科書	『美容技術理論 1.2』日本理容美容教育センター編（2023年）、配布プリント、HAIR SCULPTURE PIVOT POINT 2014、教員作成資料				
	教材	メッシュ袋・消耗品（ワインディング用ペーパー、セットローション等）・スマートフォン・フェイスシールド				
	使用設備・備品	なし				
	参考文献	『美容技術理論 1.2』日本理容美容教育センター編（2023年）、HAIR SCULPTURE PIVOT POINT 2014				
評価方法	授業態度 10％、提出物（技術課題） 10％、期末試験 80％					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
学生へのフィードバックの方法	個別に実地指導を行います。					
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻・欠席はスキルアップに支障が出る為原則認めません。また、その為に再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退出等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。また、ZOOMによるオンライン授業では、画面上に施術中の技術を投映していただきます。そのため、諸々の環境整備は事前にておいてください。					
本科目履修と関連する資格	資格名	なし				

授業計画			
	授業内容	到達目標	時間外学習・備考
第1回	オリエンテーション レイヤー（1） 基礎理論を再確認し、トレンド・全体のヘアバランスを学ぶ	レイヤーヘアスタイルの種類と全体バランス・展開図を述べるができる。	予習：レイヤー理論（P110～117）の再熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う・黒板板書の見直し。30分
第2回	レイヤー（2） 課題4－W6を実践し、スタイル評価（A～Zまで）を受ける	レイヤースタイル（縦ライン）を行うことができるようになる。	予習：課題4－W6（P115～122）の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第3回	セიმレイヤー（1） 基礎理論を再確認し、トレンド・全体のヘアバランスを学ぶ	セიმレイヤーヘアスタイルの種類と全体バランス・展開図を述べるができる。	予習：セიმレイヤー理論（P142～147）の再熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第4回	セიმレイヤー（2） 課題4－W9を実践し、スタイル評価（A～Zまで）を受ける	セიმレイヤースタイル（横と縦ライン）を行うことができる。	予習：課題4－W9（P115～122）の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第5回	ヘアカラーリング（1） color design 理論（ヘアマニキュア）を学ぶ	加齢などによって起こる白髪（グレイヘア）の基礎理論を説明することができる。	予習：トレンドヘアカースタイルを3点準備を行う。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第6回	ヘアカラーリング（2） 課題1（ウィッグ12色相環作成）を実践する	ヘアマニキュアを使用してウィッグを染めて、色味の仕上がりを測定することができる。	予習：美容理論（ヘアマニキュア）熟読。30分 復習：宿題（12色相環）の確認作業を行う。30分
第7回	ヘアカラーリング（3） color design 理論（アルカリカラー）を学ぶ	color design 基礎理論（アルカリカラー）を説明することができる。	予習：美容理論（アルカリカラー）熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第8回	ヘアカラーリング（4） 課題2（スウォッチ作成×5）を実践する	アルカリカラーを使用したスウォッチを作成し、色味の仕上がりを測定することができる。	予習：アルカリカラーの色の違いを調査しノートにまとめる。30分 復習：宿題（5シート）の完成。30分
第9回	ヘアカラーリング（5） color design 理論（ブリーチ）学ぶ	color design 基礎理論（ブリーチ）を説明することができる。	予習：美容理論（ブリーチ）熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第10回	ヘアカラーリング（6） 課題3（スウォッチ作成×2、ウィッグカラー）を実践する	脱色剤を使用したスウォッチを作成し、仕上がり度合いの比較とウィッグに施術することができる。	予習：ブリーチをしたヘアスタイルを3点準備を行う。30分 復習：宿題（5シート）の完成。30分
第11回	ヘアカラーリング（7） color design 理論（ゼロテクニック）を学ぶ	color design 基礎理論（ゼロテクニック）を説明することができる。	予習：白髪染めカラーリングの社会思潮を調べまとめる。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第12回	ヘアカラーリング（8） 課題1（ゼロテクニック）を実践する	グレイヘア用のヘアマニキュア塗布テクニック（ゼロテクニック）を行える。	予習：ゼロテクニックの手つきを練習しておく。30分 復習：作成したウィッグを考察する。30分
第13回	サロンの知識・実践（1） シャンプー＆ブローを相モデルで実践する	シャンプーからブローまでの一連の流れを行える。1回目担当者	予習：シャンプー手順の再確認と手つきの練習を行う。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第14回	サロンの知識・実践（2） シャンプー＆ブローを相モデルで実践する	シャンプーからブローまでの一連の流れを行える。2回目担当者	予習：シャンプー手順の再確認と手つきの練習を行う。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第15回	サロンの知識・実践（3） ヘアカラーをモデルに塗布し時間を置く	ヘアカラーを人頭に塗布できる。	予習：モデルの髪質やダメージ状態を確認し資料に記入する。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	サロンの知識・実践（４） カラーの発色を確認し、シャンプー &ブローを行う	ヘアカラーの発色状態を確認し実践 することができる。	予習：モデルが希望する髪色をカウンセ リングしておく。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第17回	作品制作（１） hair sculpture 作品制作を行う	自分で考えた展開図通りに作品を カットを実践することができる。	予習：自分で考えた展開図を作成し、 カットの練習を行う。30分 復習：授業の 振り返りを行う。30分
第18回	作品制作（２） hair sculpture 作品制作を行う	作品のブローを行い、セットを実践 することができる。	予習：各ブローブラシの使用練習をして おく。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第19回	作品制作（３） color design 作品制作を行う	自分で考えた手順通りにヘアカラーを 実践することができる。	予習：ヘアカラー手順を考え、イメージ トレーニングをする。30分 復習：授業の 振り返りを行う。30分
第20回	作品制作（４） color design 作品制作を行う	フィニッシュワークを使用し作品を 仕上げ実践することができる。	予習：完成作品をイメージし仕上げ練習 をしておく。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第21回	ゲストスピーカー鳥屋部氏による講 義（１） カウンセリングを学ぶ	サロンの現状説明、カウンセリングの 理論と実践を行い、サロンで活か せる場面を想定できる。	予習：サロン用のカウンセリング方法を 事前に調べてくる。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第22回	ゲストスピーカー鳥屋部氏による講 義（２） ヘアカラーリング技術を学ぶ	サロンで使用されている実践的なヘ アカラーリング技術を学び、サロン で活かせる場面を想定できる。	予習：サロン用のヘアカラーリング方 法を事前に調べてくる。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第23回	フィンガーウェーブ技術 バック3 線を実践する (以下、フィンガーウェーブ技術を FWと表記する)	FW技術バック3線とクロッキノー ルカールを理解し実践できる（40 分）	授業終了後60分程度復習すること
第24回	ワインディング技術（デザイン巻 き） 全頭を実践する (以下、ワインディング技術をWDと 表記する)	時間を意識し、ブロッキングと全頭 の収め方を理解し実践できる（ブ ロッキング込・全頭20分）	全頭WDを授業前に90分程度予習しておく
第25回	FW技術 バック3線を実践する	FW技術バック3線とクロッキノー ルカールを理解し実践できる（40 分）	授業終了後60分程度復習すること
第26回	WD技術（デザイン巻き） 全頭を実践する	時間を意識し、ブロッキングと全頭 の収め方を理解し実践できる（ブ ロッキング込・全頭20分）	全頭WDを授業前に90分程度予習しておく
第27回	FW技術 バック3線を実践する	FW技術バック3線とクロッキノー ルカールを理解し実践できる（40 分）	授業終了後60分程度復習すること
第28回	WD技術（デザイン巻き） 全頭を実践する	時間を意識し、ブロッキングと全頭 の収め方を理解し実践できる（ブ ロッキング込・全頭20分）	全頭WDを授業前に90分程度予習しておく
第29回	FW技術 バック3線を実践する	FW技術バック3線とクロッキノー ルカールを理解し実践できる（40 分）	授業終了後60分程度復習すること
第30回	WD技術（デザイン巻き） 全頭を実践する	時間を意識し、ブロッキングと全頭 の収め方を理解し実践できる（ブ ロッキング込・全頭20分）	全頭WDを授業前に90分程度予習しておく